



Corporate
Social
Responsibility
REPORT

CSRLレポート 2018

「断つ・保つ」の技術で 地球の明るい未来に貢献します。

Contents

会社概要	02	CSRの活動目標と実績	11
トップメッセージ	03	コーポレートガバナンス	13
社会の中のニチアスグループ	05	お客さまとのつながり	15
特集		株主・お取引先とのつながり	16
エネルギーの「つくる」と「つかう」を 支えるニチアス製品	07	従業員とのつながり	17
		社会とのつながり	19
		環境への取り組み	21



編集方針

ニチアスグループは、持続可能な社会の実現に向けた取り組みと社会的責任に関する情報をわかりやすく開示し、ステークホルダーの皆さまのご理解を深めることを目的に、CSR (Corporate Social Responsibility) レポートを発行しています。

報告範囲

ニチアス株式会社を中心に、下記項目を除きニチアスグループ全体について報告しています。

- ・「従業員とのつながり」(P17、18)の「メンタルヘルスケア」「ダイバーシティへの取り組み」「ワークライフバランスの推進」についてはニチアス株式会社単体を対象としています。
- ・「環境への取り組み」(P21～26)は、プラント向け工事・販売事業および建材事業の工事部門に関するデータを除いています。
- ・「環境パフォーマンス」(P23、24)は当社製造工場^{注1}、国内連結製造子会社^{注2}を対象としています。

注1:鶴見工場、王寺工場、郡山分工場、羽島工場、袋井工場、結城工場

注2:ニチアスセラテック株式会社、株式会社堺ニチアス、国分工業株式会社、亀田工業株式会社、大田化成株式会社、株式会社福島ニチアス、メタコート工業株式会社、株式会社君津ロックウール

報告期間

2017年4月1日～2018年3月31日

次回発行予定

2019年6月

編集・発行

CSRチーム

将来の見通しに関する注意事項

本レポートには、ニチアスグループの実績および将来に関する予測・計画などが記載されています。これらは現段階で入手可能な情報に基づいた仮定ないし判断であり、実際の業績や活動結果などについては異なったものとなる可能性があります。読者の皆さまにはあらかじめご了承くださいませようお願い申し上げます。

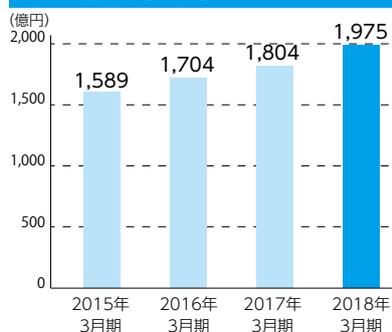
※®が付された名称はニチアス(株)の登録商標です。

※TMが付された名称はニチアス(株)の商標です。

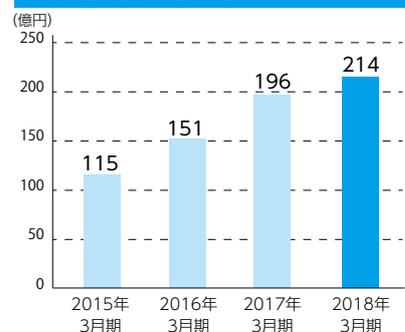
会社概要(2018年3月31日現在)

商号 ニチアス株式会社
 NICHIAS Corporation
設立 1896年(明治29年)4月9日
資本金 121億円
代表者 代表取締役社長 武井 俊之
従業員 連結: 5,784人/単独: 1,626人
本社 東京都中央区八丁堀一丁目6番1号

売上高推移(連結)



営業利益推移(連結)



事業分野

建材事業

不燃・断熱・耐火などの性能を備えた建材を提供するとともに、その建材を活用した施工事業も展開。オフィスビル、住宅、工場、研究施設などの、より安全で快適な空間づくりに貢献しています。



巻付け耐火被覆材



住宅用断熱材

自動車部品事業

シリンダーヘッドガスケットなどの流体の漏れを「断つ」機能部品であるシール材をはじめ、自動車の進化に対応する防熱、防音、制振関連の製品を提供しています。

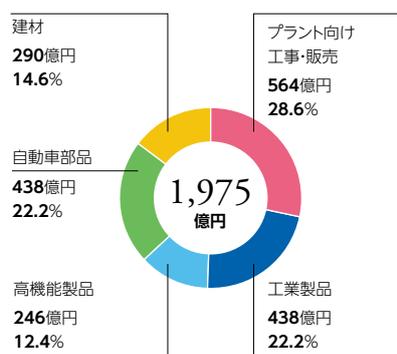


シリンダーヘッドガスケット



超軽量防音カバー

事業分野別売上高比率(2018年3月期)



高機能製品事業

技術革新の早いエレクトロニクス関連産業分野の中で、半導体・FPD製造装置における、熱・薬液・ガスなどプロセスに関わる先進の部品や部材を提供しています。



ふっ素樹脂製チューブ



配管加熱・保温ヒーター

プラント向け工事・販売事業

極低温から超高温にいたる領域で、独自技術を駆使したエンジニアリングサービスやシール材などをはじめとする製品を提供。電力、LNG、石油精製・石油化学などのプラント施設に常駐体制を構築することで、各種工事やメンテナンス工事におけるお客さまのニーズにお応えしています。



保冷工事



シール材

工業製品事業

装置機器、環境、食品、医療、鉄鋼などの主要産業分野を中心に、ガスケット・パッキン、ふっ素樹脂製品、各種断熱材、フィルター製品などの幅広い製品を提供しています。また、全社のマザー事業本部として、新規事業創出の役割も担っています。



ロックウール断熱材



低濃度有機溶剤濃縮機

「断つ・保つ」の技術を通じ 企業価値の向上と社会課題の解決に 取り組んでまいります

代表取締役社長

武井俊之



ニチアスは1896年(明治29年)に、我が国における保温・断熱分野のパイオニアとして創業いたしました。以来120余年の歴史の中で、当社独自の技術である「断つ・保つ」の技術を育み深化させ、我が国の産業界の発展に貢献してまいりました。その結果、現在5つの事業を生み出しております。

当社グループの企業理念(ニチアス理念)では、「ニチアスは『断つ・保つ』の技術で地球の明るい未来に貢献します」と掲げています。これは当社グループが創業以来育んできた「断つ・保つ」の6つの技術を駆使した製品・サービスの提供を通して、社会課題の解決に貢献することを宣言したものです。

事業活動とCSR活動の推進を両輪として ニチアス理念の実現をめざす

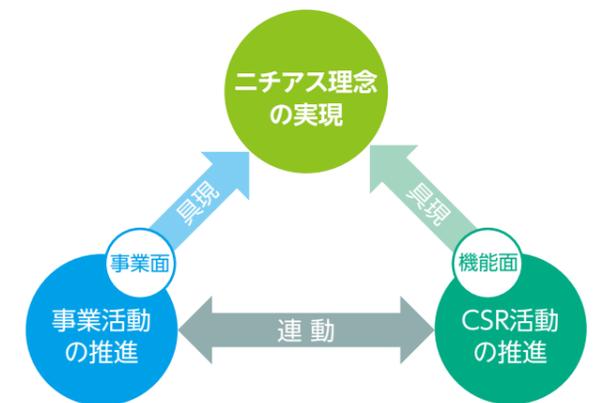
当社グループは、2016年度を初年度として策定した中期経営計画の施策の中で、事業面では①成長市場への注力、②海外事業の強化、③国内事業のシェアアップを、機能面ではCSR活動の推進(社会的役割と価値の向上)を掲げています。これらを両輪として連動させることで、ニチアス理念の実現をめざします。本レポート特集では、「断つ・保つ」の6つの技術の一つである熱を「断つ・保つ」にスポットを当て、省エネルギーに貢献する当社グループの製品とサービスを紹介しています。熱を有効に使う技術は日進月歩の勢いで進化していますが、これまで以上に熱を有効に使い、省エネルギーを極限にまで進めることは社会からの要請であり、社会課題でもあります。そこに当社グループがもつ独自の技術を発揮することで、社会の役に立ち社会からの要請に応えていきたいと考えます。

当社グループのCSR活動は、コーポレートガバナンスはもちろんのこと、お客さま、株主・お取引先の皆さま、従業員、社会の皆さまとのつながり、そして環境への取り組み、これらを軸とした活動を進めています。こうした活動は一部の従業員や地域だけで行うのではなく、全国そして全世界の従業員一人ひとりが、日々の活動として実施しているものです。

今以上に「働きやすい明るい会社」 「ありがとうのあふれる会社」に

当社グループは、事業活動とCSR活動の推進により今以上に「働きやすい明るい会社」「ありがとうのあふれる会社」をめざすことで、ニチアス理念の実現に向けて歩んでまいります。

2017年度のCSR活動の成果をステークホルダーの皆さまにご報告します。本レポートをご一読いただき、当社グループのご理解の一助になれば幸いです。



「断つ・保つ」の6つの技術で 社会課題の解決に貢献

「断つ・保つ」の6つの技術



断れを断つ
シール技術

配管の継ぎ目から流体が漏れることを防ぎ、設備の安全な稼働を支えています。



熱を断つ・保つ
断熱技術

加熱(または冷却)されたものの温度を保ったり、外部からの熱を断つことで省エネルギーに貢献し、CO₂排出量の削減にも役立っています。



音・振動を断つ
防音技術

工場からの騒音や自動車のブレーキからの振動音を低減することで、静かで快適な生活の実現に寄与しています。



火を断つ
耐火技術

工業炉や焼却炉、または火災で建物が火にさらされても耐えるための材料を提供し、安全を守ります。



食害を断つ
耐食技術

化学薬品による腐食や汚染を防ぎます。例えば、洗浄や除菌の管理が厳しい半導体や食品製造の工程で活躍しています。



クリーンを保つ
クリーン技術

半導体製造などわずかな不純物も許されない工程で、クリーンを保っています。クリーンを極限まで追求します。

1 半導体製造工場



薬液移送用チューブ
ナフロン®
PFA-HGチューブ

高純度の薬液・ガスの移送に使用されるチューブです。



耐熱性パーフロゴム
ブレイザー®
ネクスト

機器、配管およびバルブに使用されるパーフロゴム製シール材です。



2 H-IIロケット



メタル中空リング
メタルOシール

ロケットエンジンの液体燃料配管の継手部に使用されるシール材です。



3 病院



医療用チューブ
ナフロン®
マルチルーメンチューブ

医療機器の部品として使用されるふっ素樹脂製のチューブです。



4 原子力発電所



原子力発電設備用保温材
金属保温材

原子炉の圧力容器や各種機器、配管に使用される金属保温材です。



5 ごみ焼却炉



非金属製伸縮継手
NA ベロー-Q®

各種配管やダクトなどの煙風道に使用される非金属製伸縮継手です。

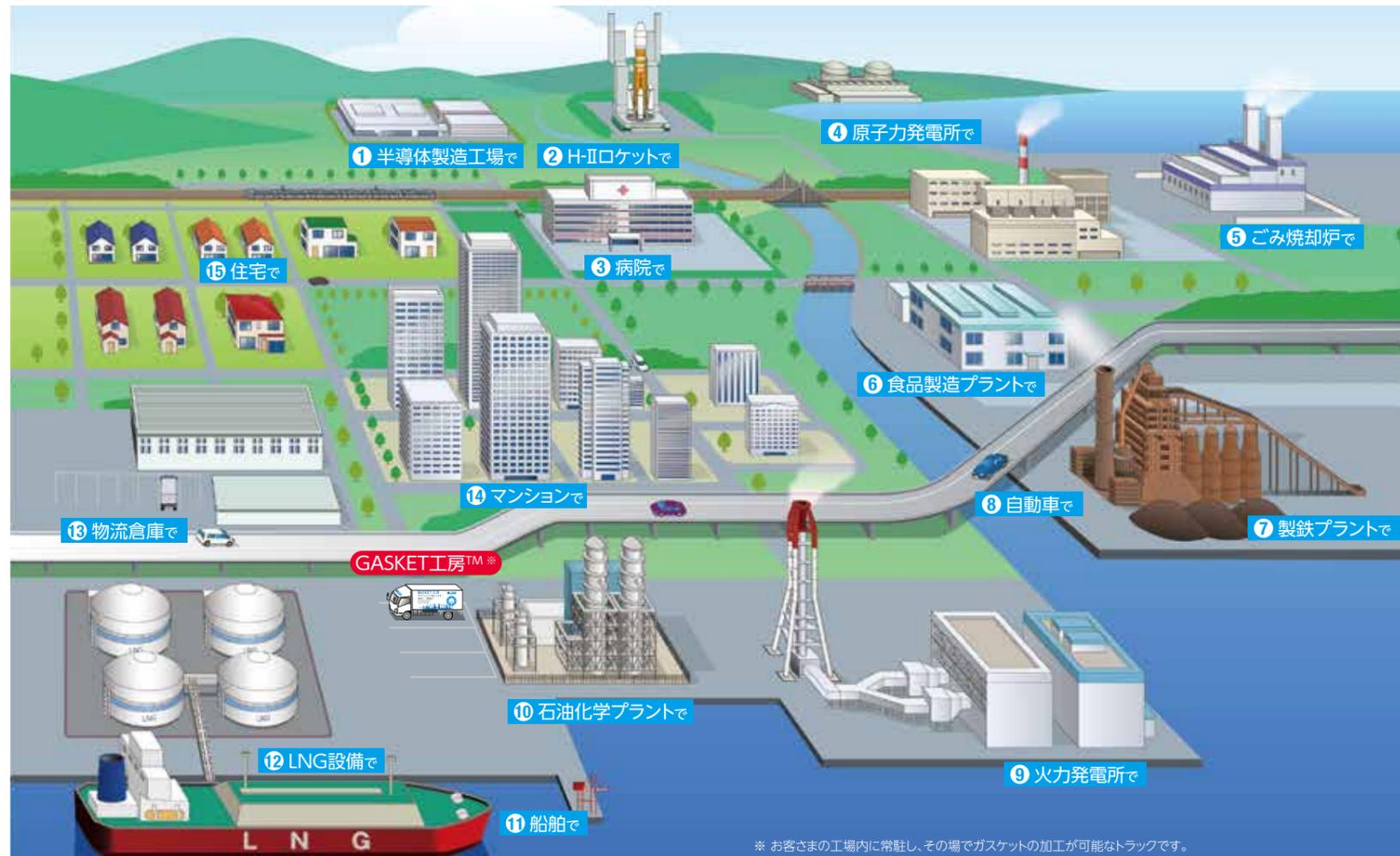


6 食品製造プラント



サニタリー用ガスケット
サニクリーン®
ガスケット

製品充填ラインなどで使用されるシール材です。



※ お客さまの工場内に常駐し、その場でガスケットの加工が可能なトラックです。

15 住宅



住宅用断熱材
ホームマット®

住宅の天井・壁・屋根に使用される断熱材です。



14 マンション



汎用ジョイントシート
クリンシル® ブラウン

各種配管のフランジやバルブなどに使用されるシール材です。



13 物流倉庫



排気ダクト用防火材
セラカバー® S

マンションの排気ダクトなどに使用される防火材です。



12 LNG設備



巻付け耐火被覆材
マキベエ®

鉄骨構造ビルの梁や柱に使用される耐火被覆材です。



10 LNG設備



保冷工事

LNG基地、LNG船、配管、タンクやその他設備への保冷材の取り付け工事です。



11 船舶



ノンフロン硬質ウレタンフォーム
フォームナート® TN

低温流体用の配管に使用されるウレタンフォーム保温材です。



10 石油化学プラント



低熱伝導率フレキシブル保温材
パイロジェル™ XT

高温の配管、機器、タンクなどに使用される保温材です。



9 火力発電所



うず巻形ガスケット
グラシール® ボルテックス®
ガスケット

エンジンやボイラーなどの機器や配管で使用されるシール材です。



※「パイロジェル」はaspens aerogels, Inc.の商標です。

エネルギーの「つくる」と「つかう」を支えるニチアス製品

地球温暖化の要因の一つとされているCO₂の排出量を抑制する必要性が高まっている中、我が国では東日本大震災後、発電供給量割合の80%以上が火力発電によってまかなわれている状況が続いています。こうした中で電力を発電する側、消費する側の双方でエネルギー消費を削減する取り組みが官民一体で進められています。

ニチアスは、熱を「断つ・保つ」技術の各種製品・サービスの提供を通してエネルギー消費の削減に貢献していますが、本特集では、エネルギーの「つくる」と「つかう」双方の省エネルギーを支える、当社の熱を「断つ・保つ」技術の製品・サービスをご紹介します。

🔥 LNG火力発電の特徴

日本の発電割合は東日本大震災以降、80%以上を火力発電でまかっています。火力発電の主要燃料(LNG、石油、石炭)のうち、現在一番使用されているのがLNGです。LNGとは「Liquefied Natural Gas(液化天然ガス)」の略です。常温では気体ですが、-162℃に冷却することで液化され容積が1/600になるので、貯蔵、運搬に適した形状になります。LNG火力発電は、石油と石炭による火力発電と比較してCO₂の排出量が一番少ない発電となります。

🔥 幅広い温度領域で求められる省エネ技術

LNG火力発電所では、LNGを-162℃で貯蔵・運搬する工程から、それらを気化させて燃焼することで発電する工程まで、極低温から超高温まで幅広い温度領域での省エネ技術が求められています。こうした中でニチアスの幅広い省エネ技術がLNG火力発電所において貢献しています。

エネルギーを

つくる

LNG火力発電所



ボイラーで
**ファインフレックスBIO®
ブランケット**
発電所のボイラーなどで使用される断熱材です。1,000℃を超える温度領域での使用が可能で高い省エネ効果が期待できます。



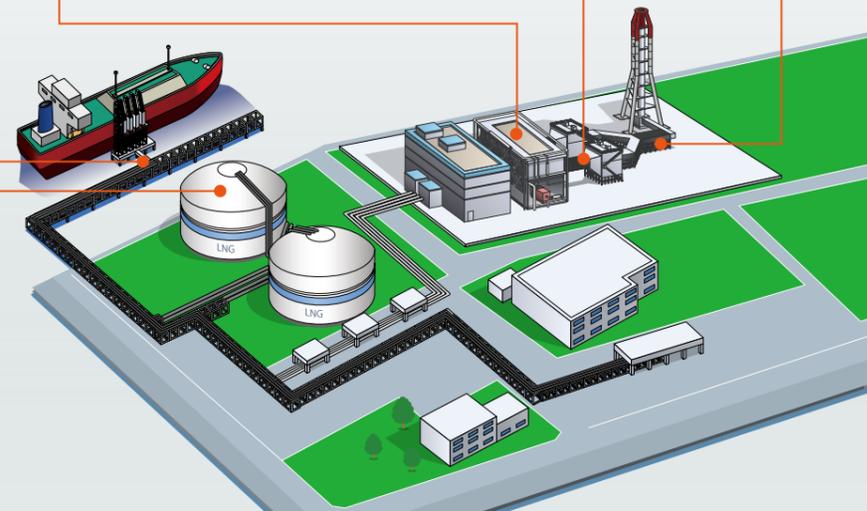
保温材が巻かれた配管で
e-AIM® 工法
発電所の配管に巻かれた保温材を撤去することなく保温機能を回復・向上させることができる工法です。省エネルギーだけでなく、廃棄物削減にも貢献します。



ダクトで
MGボード™
発電所のダクトやボイラーなど600℃程度までの温度領域の幅広い用途で使用されている断熱材です。



LNGタンク、LNG配管で
フォームナート® TN
-162℃以下に冷却し液化されたLNGを扱うタンクや配管に使用される保冷材です。



🏠 家庭部門での動向

CO₂排出量内訳では「産業部門」が最多で、「民生部門(オフィス・店舗などの業務部門と家庭部門)」がこれに続いています。「産業部門」のCO₂排出量は各企業の削減努力によって減少していますが、「民生部門」は30%を超える増加率(1990年度比)で、なかでも家庭部門における省エネルギーは急務の課題です。

このような状況において、政府は2020年に新築住宅の建築に関して改正省エネ基準(平成25年基準)の適用を義務化する方針を打ち出しています。改正省エネ基準では新たに設備性能の評価も加えて建物全体の省エネ性能を判断するようになりました。

これにより、住まいの「省エネ」性能を上げることはもちろん、太陽光発電や家庭用燃料電池を使った「創エネルギー」により年間の一次消費エネルギー量の収支をトータルでゼロにする住宅「ZEH(Net Zero Energy Houseの略)」にも注目が集まっています。

🏠 省エネルギー・創エネルギーで活躍するニチアス製品

家庭における当社の省エネ製品は、住宅の省エネルギーに役立つロックウール断熱材と創エネルギーをつかさどる家庭用燃料電池(エネファーム)にて高効率発電に寄与する断熱材、家庭用給湯器に使われる断熱材があげられます。住宅と創エネ機器の省エネルギーに、当社の各種製品で貢献しています。

エネルギーを

つかう

住宅

家庭用給湯器で
**ファインフレックスBIO®
ペーパー**
高効率給湯器で耐熱性を求められる箇所に所定の形状に打ち抜いてシール材として使用します。

家庭用給湯器で
ソフレックス
家庭用給湯器でのシール材として使用されます。ふっ素樹脂素材のため耐薬品性に優れています。

壁・天井で
ホームマット®
住宅の壁や天井に充填する断熱材です。室内外の熱の移動を抑え、夏場は室内の温度上昇を抑え、冬場は室内の温度低下を防ぎます。

家庭用燃料電池(エネファーム)で
ロスリム® ボードGH
家庭用燃料電池の発電部分の断熱に使用されます。高い断熱性能をもち発電効率の向上に貢献しています。

エネルギーを「つくる」現場で支えるニチアス製品

極低温のLNGを効果的に保冷するフォームナート® TN

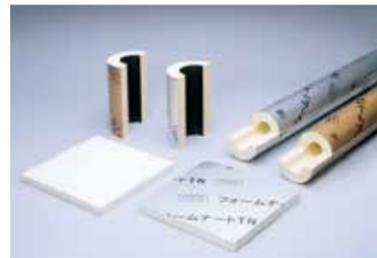
地域地球温暖化防止支援事業に認定

天然ガスは発電用燃料、都市ガスの原料や化学原料などとして使用されており、ほとんどが海外から輸入されています。ガス田から採掘された天然ガスは隣接するプラントで液化され、-162℃のLNGとしてLNG船により海上輸送されます。輸入されたLNGは、受入基地でLNGタンクに受入、貯蔵されます。フォームナートTNは独立気泡からなる硬質ウレタンフォーム断熱材で、低温流体を扱う設備や機器への冷熱の遮断に使用され、外気からの浸入熱量を小さく抑えます。保冷の不備は機器の結露

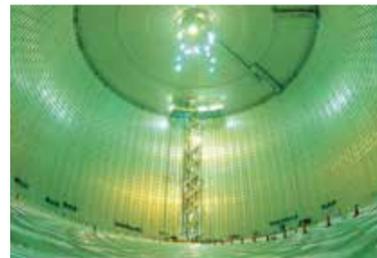
による腐食や、運転負荷の増大など種々の障害に結びつくため、フォームナートTNが果たしている役割は非常に重要です。

なお、フォームナートTNは業界に先駆けてオゾン層破壊の原因となるHCFC類、HFC類などのフロン系発泡剤を一切含まない保冷材として発売しました。

2004年には日本ガス協会より技術賞、日刊工業新聞主催「第7回オゾン層保護・地球温暖化防止大賞」では優秀賞を受賞し、同年、経済産業省より地域地球温暖化防止支援事業として認定されました。



フォームナートTN



採用例: LNGタンク



採用例: LNG配管

設備の運転負荷低減

保冷の不備による結露や運転負荷の増大などの問題を防ぎます。

優れた低温安全性

-162℃のLNGを保冷するために、-196℃の温度でも十分な低温安全性をもつ優れた断熱材です。

業界に先駆けノンフロン対応

発泡剤にフロンを使わず炭酸ガスを主として使用した製品です。

お客様の声



LNG基地には欠かせないニチアスの「断つ・保つ」の技術力

石油資源開発株式会社
執行役員 相馬事業所長
宮台 隆将 様

2018年3月、当社は福島復興のための主要プロジェクトの一つに位置付けられている「相馬LNG基地」(福島県・相馬郡新地町相馬港4号埠頭)の操業を開始しました。「相馬LNG基地」は、国内天然ガス供給ネットワークの重要拠点で、国内最大級となる23万kℓ地上式LNGタンク、海外からの大型船の受け入れが可能な外航船

棧橋、LNG気化設備などを有する大型LNG基地です。LNG基地では-160℃という極低温の可燃性流体を取り扱うため、熱を「断つ・保つ」技術と漏れを「断つ」技術が大変重要な役割を果たします。「相馬LNG基地」においてもニチアス様の高い断熱性能を有する保冷材と高いシール性能を有するガスケット類が省エネルギーと安全性の向上に大きく貢献しています。今後もニチアス様の強みである「断つ・保つ」技術をさらににつつまめ、エネルギー産業の成長・発展に貢献されることを期待しています。

エネルギーを「つかう」現場で支えるニチアス製品

コンパクト化の要求に応えるロスリム® ボードGH

省エネルギーセンター会長賞を受賞

ロスリムボードGHは、優れた加工性とハンドリング特性を付加した従来になり高強度な高性能断熱材です。静止空気の熱伝導率を凌ぐ超低熱伝導性は、断熱材の薄肉化による省スペース設計を実現し、断熱材が同じ厚さの場合には放散熱量の大幅な低減による優れた省エネルギー効果が得られます。まさに「炉」が「スリム」になるほか、「炉」の消費エネルギーも「スリム」ダウンする画期的な断熱材です。工業炉用断熱材(バックアップ材)をはじめ燃料電池用断熱材や高温燃焼器用断熱材と

いった複雑、特殊形状でコンパクト化を要求される断熱部材に幅広く使用することができます。

家庭用燃料電池(エネファーム)においては、このような優れた断熱性能とコンパクト化の要求を満足する点が評価され、発電部分の断熱材として採用されています。

ロスリムボードGHは、一般財団法人省エネルギーセンターが主催(後援:経済産業省)する平成27年度「省エネ大賞」の製品・ビジネスモデル部門において、省エネルギーセンター会長賞を受賞しました。



ロスリムボードGH



採用例: 家庭用燃料電池(エネファーム)

抜群の断熱性能で省エネ化

従来の断熱材と比べ、高い断熱性。厚みを同じにすれば、より高い省エネ効果が得られます。

小型化に貢献

薄くてもしっかり断熱できるため、必要な断熱材の量を低減し、コンパクトな断熱設計が可能となります。

施工が容易なため工期短縮に貢献

低熱伝導材料の中では極めて優れたハンドリング性を示し、特殊工具を必要とせず加工が可能のため、工期短縮に貢献します。



平成27年度「省エネ大賞」

お客様の声



「エネファーム」普及のために

アイシン精機株式会社
L&E商品本部 エネルギー技術部
コジェネグループ FC第3チーム
チームリーダー
遠藤 聡 様

私は現在、家庭用燃料電池コジェネシステム「エネファーム type S」に用いられる発電ユニットの設計開発に携わっています。「エネファーム」は、都市ガスやLPガスといったご家庭で使用されているガスから、電気をつくると同時に、電気をつくるときに生じる廃熱を給湯などに利用することのできる環境に

やさしいエネルギーシステムです。一つのエネルギー(ガス)から電気・熱という二つのエネルギーを創出することで、エネルギー利用率が上がり、省エネ効果を生みだします。「エネファーム」をより多くのお客さまにご使用いただくことで、社会全体の省エネルギーに貢献すると考えています。しかしながら、より多くのお客さまにご使用いただくためには、低価格化を推進しなければなりません。ニチアス様には、現在ご提供いただいている高性能な断熱材の性能維持・向上と低価格化の両立という点で、ご協力いただければ幸いです。

CSRの活動目標と実績

ニチアスグループは、お客さま、お取引先、株主・投資家、従業員の皆さまとのつながりはもとより、社会全般および拠点のある地域社会とのつながりを大切に、より良い関係の構築を通して社会的課題の解決に貢献します。



6つの軸		活動項目	2017年度目標	2017年度実績	2018年度目標	
1	コーポレートガバナンス	内部統制評価	<ul style="list-style-type: none"> グループにおける経営諸活動全般の管理、運営を監査 本体：8拠点、グループ会社：国内11拠点、海外11拠点を対象に実施 	<ul style="list-style-type: none"> 左記30拠点で実施。全拠点とも大きな問題はなく、管理状況は良好と判断 	<ul style="list-style-type: none"> グループにおける経営諸活動全般の管理、運営を監査 本体：9拠点、グループ会社：国内20拠点、海外11拠点を対象に実施 	
		コンプライアンス	<ul style="list-style-type: none"> ニチアスグループ全体のコンプライアンスの徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 本部委員が各支部委員会を訪問し、支部委員会活動を支援 支部委員会事務局連絡会を6分科会で3回開催 「従業員アンケート結果」に基づき個別に対応 「コンプライアンスポータルサイト」の教育・啓発資料を毎月第1火曜日に追加・更新 階層別研修においてコンプライアンス教育を実施 外部講師による管理職向けハラスメント防止研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 本部委員による支部委員会訪問の継続 支部委員会事務局連絡会の運営による支部委員会活動の活性化と周知 「コンプライアンスポータルサイト」の啓発資料を活用した教育の継続実施 外部講師等によるコンプライアンス研修の実施 コンプライアンス内部講師の育成 時間外、休日勤務の管理ルールへの順守 	
		知的財産の保護	<ul style="list-style-type: none"> 知的財産保護・尊重の浸透 	<ul style="list-style-type: none"> 203期新任主管研修で階層別研修実施 	<ul style="list-style-type: none"> 知的財産保護・尊重の浸透 	
2	お客さまとのつながり	製品の安定供給	<ul style="list-style-type: none"> 継続的に事業活動を行っていくためのBCP活動 重要21製品の復旧時間の算定、手順書の整備、訓練実施 	<ul style="list-style-type: none"> 王寺工場1号棟、鶴見工場事務所棟の建て替え 羽島工場樹脂部門においてBCP診断を実施 BCP診断結果の展開先を選定 重要原材料の調達先の調査完了 	<ul style="list-style-type: none"> 継続的に事業活動を行っていくためのBCP活動 羽島工場の実績を他拠点に横展開 製造拠点のリスク診断の継続実施(2拠点/年)* *想定リスク：火災、爆発、自然災害 	
		品質保証体制	<ol style="list-style-type: none"> 品質クレームの低減 若手を対象とした品質教育活動「品質アカデミー」の展開(受講者200名以上) QC検定受検の推進(合格者30名) 	<ol style="list-style-type: none"> 0.21件(連結売上1億円当たり) 延べ255名が受講 QC検定合格者59名 	<ol style="list-style-type: none"> 品質クレーム発生0.21件以下(連結売上1億円当たり) 「品質アカデミー」受講者200名以上 QC検定新規合格者30名 	
3	株主・お取引先とのつながり	株主・投資家への情報開示	<ul style="list-style-type: none"> 適切な情報開示の実施 個別ミーティング120件以上 工場見学の実施、IRサイトの充実 	<ul style="list-style-type: none"> 5月・11月に決算説明会を開催 個別ミーティングは159件実施 工場、製造子会社、研究所の見学会を12件実施 個人投資家向け会社説明会を実施 IRサイトの一部リニューアル 	<ul style="list-style-type: none"> フェアディスクロージャールール導入にともなう公平、適切な情報開示 個別ミーティング150件以上 個人投資家向け会社説明会開催 工場見学会実施 海外IRの実施 	
		公正な競争・取引	<ul style="list-style-type: none"> 独禁法、下請法違反事例ゼロ 独禁法の改訂マニュアルの説明会実施による遵法意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 独禁法、下請法に関する研修会、eラーニングを実施(違反事例ゼロをめざした遵法意識の向上) 独禁法マニュアル改訂と周知による遵法意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 独禁法、下請法違反事例ゼロ 下請事業者への手形等での支払方法の適正化 	
		取引に関する方針	<ul style="list-style-type: none"> 原材料のBCP対策ができています 	<ul style="list-style-type: none"> 重要21製品に使用されている原材料の工場所在地、在庫数量などを調査し把握 上記から41社を選び、BCPの取り組みについてヒアリング実施中 	<ul style="list-style-type: none"> 原材料のBCP対策について41社すべてのヒアリングを完了し、結果を社内展開し、今後の対策を実施する 	
4	従業員とのつながり	ダイバーシティへの取り組み	女性総合職の積極採用	<ul style="list-style-type: none"> 女性総合職の採用率 20%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 女性総合職の採用率 16.7% 	<ul style="list-style-type: none"> 女性総合職の採用率 20%以上
		障がい者雇用率の維持	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者雇用率 2.0%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者雇用率 2.14% 	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者雇用率 2.2%以上 	
		ワークライフバランスの推進	有給休暇の取得推進	<ul style="list-style-type: none"> 有給休暇取得率 50%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 有給休暇取得率 44.2% 	<ul style="list-style-type: none"> 有給休暇取得率 50%以上
		在宅勤務制度の導入	<ul style="list-style-type: none"> 在宅勤務制度導入 	<ul style="list-style-type: none"> 在宅勤務制度導入に向け、運用案を検討中 	<ul style="list-style-type: none"> 在宅勤務制度導入 	
		従業員の安全と健康の推進	従業員の安全と健康	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断二次検査受診率 100% 重大災害の撲滅 	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断二次検査受診率 100% 重大災害1件 安全作業指針(3種類)制定 不安全行動抑制のため、「指差し呼称の定着」活動をグループ全体で展開開始 	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断二次検査受診率 100% 重大災害0件 安全作業指針(4種類)制定 「指差し呼称」の定着
		メンタルヘルスケア	<ul style="list-style-type: none"> 海外危機管理初動対応マニュアルの作成 	<ul style="list-style-type: none"> 安否確認ツール「ハザードバスター」の利用マニュアル作成 海外子会社各社にて「海外危機管理マニュアル」を作成 危機管理ツール「アラートスター」の運用開始 	<ul style="list-style-type: none"> 各ツールの申込推進と運用開始後のフォロー 	
こども参観日	<ul style="list-style-type: none"> 本社、地域事業所でのこども参観日の開催継続 	<ul style="list-style-type: none"> 2017年7月 本社開催 2017年8月 大阪支社開催 	<ul style="list-style-type: none"> 本社、地域事業所での開催継続 			
5	社会とのつながり	地域貢献活動	地域におけるボランティア活動	<ul style="list-style-type: none"> 各拠点によるCSR活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> CSR活動の申請手続整備 73拠点による145件の活動実績(詳細は20ページ) 	<ul style="list-style-type: none"> 各拠点によるCSR活動の充実
		社会貢献活動	社会貢献活動(寄付、植林など)	<ul style="list-style-type: none"> 学術研究助成の継続 	<ul style="list-style-type: none"> 学術助成 31,000千円 	<ul style="list-style-type: none"> 学術研究助成の継続
		災害支援	<ul style="list-style-type: none"> 災害支援の継続 	<ul style="list-style-type: none"> 九州北部豪雨災害に対する寄付 	<ul style="list-style-type: none"> 災害支援の継続 	
6	環境への取り組み	環境への取り組みの目標・実績は22ページに掲載しています。				

コーポレートガバナンス



ニチアスグループは、経営の透明性、公正性、効率性を高め、企業価値を長期にわたり安定的に向上させることが経営の最重要課題と考えています。

コーポレートガバナンスの強化

当社グループの企業価値の向上は、公正な企業活動によって社会的使命を果たし、ステークホルダーの皆さまの信頼と支持を得て初めて可能であり、コーポレートガバナンスの充実はそのための体制づくりの基本的な命題であると位置付けています。

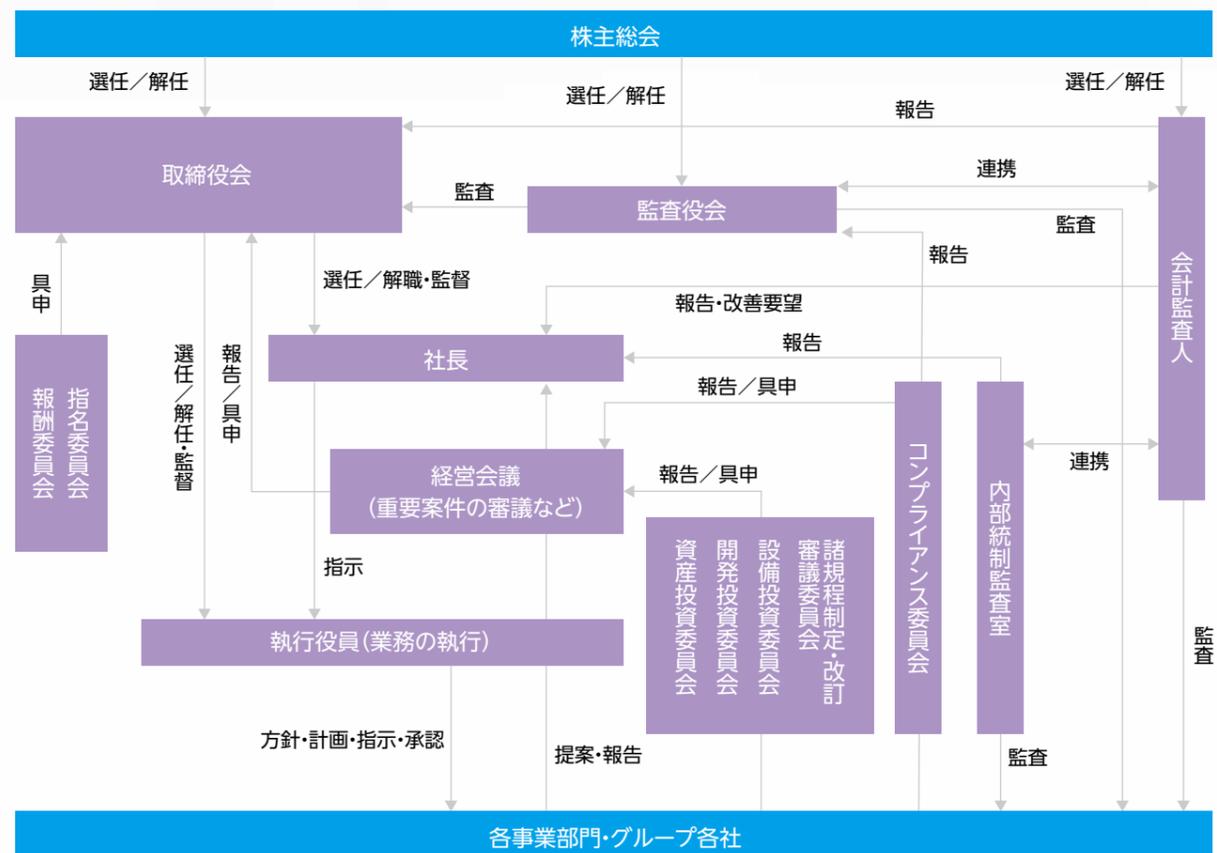
当社の取締役会は、経営の透明性、公正性を高め、かつ経営上の意思決定を迅速に行うため、当社事業に精通した8名の取締役と、独立した立場から自由に提言できる2名の社外取締役で構成しています。毎月定例日に1回、必要場合は臨時に開催し、経営上の重要な意思決定を行っています。2017年度は合計14回開催しました。このほか、取締役

会を効率化するための審議機関として、取締役、常勤監査役、各本部を担当する執行役員により構成される経営会議を原則毎週開催しています。稟議案件の承認、全社的な業務運営や個別の重要案件を審議することで、機動的な意思決定が可能となる体制を構築しています。

また、当社の監査役会は経営監視機能の客観性と中立性を確保するため、それぞれ専門分野をもった社外監査役と常勤監査役によって構成されており、経営に対して積極的な意見表明を行っています。

当社はこれらの体制を構築することにより、経営の透明性、公正性、効率性を高めています。

■ コーポレートガバナンス体制図



コンプライアンス

当社グループは、企業経営を行ううえで、また社会の中で活動する一員として、多くのステークホルダーの皆さまと良好な関係を構築できるよう、法令・定款の順守はもとより、社会の良識、常識を踏まえたコンプライアンス活動に取り組んでいます。

活動の基盤は、毎月開催されるコンプライアンス本部委員会と3カ月に一度開催される事業場ごとのコンプライアンス支部委員会にあり、コンプライアンス違反につながりかねない行為の根絶を図っています。

また、定点観測という観点からおおむね3年に一度、従業員全員を対象としたアンケートを実施しているほか、階層別研修などを通じた教育や、通報窓口としてのコンプライアンスカウンターへの啓発ポスターを掲示することに加え、社内イントラネットに「コンプライアンスポータルサイト」を設け、従業



コンプライアンスポータルサイト

内部統制評価

当社グループ全体の企業価値の向上を図るため、内部統制にかかる体制を整備し、その評価の仕組みを構築しています。公正性、独立性を明確にするため、社長直轄の内部統制監査室を設置し、当社グループの内部監査を計画的に実施しています。

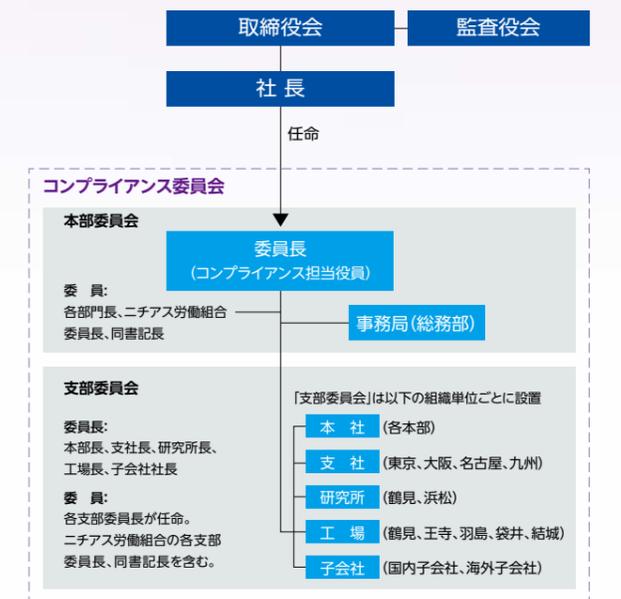
2017年度は、ニチアス本体8拠点(営業4、製造3、研究1)、グループ会社22拠点(国内11、海外11)を対象に内部監査を行いました。いずれの拠点も大きな問題はなく、管理状況は良好と判断しました。

また、当社グループの財務報告に関わる内部統制は有効と判断する「内部統制報告書」を作成、提出しています。

員全員に啓発資料を提供するなど、従業員の意識向上と、通報者が情報提供をしやすい開かれた体制づくりを積極的に推進しています。

そのほかにも、第三者機関による「総合通報窓口」も開設し、より透明性の高い体制の中で、コンプライアンス経営を実践できるよう努めています。

■ コンプライアンス体制図



知的財産の保護

当社グループでは、事業を展開していくうえで知的財産(知財)を重要なものとして位置付けています。

そのため、新製品開発や新規研究で創出した技術については、権利取得を積極的に推進し、技術の保護に努めています。新製品発売時には他者の知財権を尊重し、権利侵害がないよう適宜調査・確認を実施し、他者からの権利侵害については適切に対応しています。また、自社ブランドの権利化を各国で進めるとともに、模倣品調査を適宜行い、模倣品発見時には適切に対応することで自社ブランド価値の維持・向上および利用者の安全確保に努めています。

お客さまとのつながり



ニチアスグループは、お客さまにとって安全・安心な製品の提供、および、お客さまに役立つ製品・サービスの提供を推進しています。

安全・安心な製品の提供

お客さまに信頼される品質への取り組み

お客さまに安心して使っていただける製品を継続的に提供するため、新製品の開発や製造条件の変更などに際しては、その企画から生産立ち上げまで、そのステージに応じて厳しく審査する仕組みを設けています。「開発」「技術」「製造」「品証」「環境」部門がそれぞれの専門的見地から、製品の品質と安全性や生産プロセスの妥当性を厳しく審査しています。

品質マネジメントシステム

当社グループでは、120余年の歴史で培った独自のシステムとISO9001を融合した、固有の品質マネジメントシステムを構築し、幅広い事業と多様な製品群の品質保証活動を推進しています。各製造事業場ではISO9001認証の取得を推進し、現在では国内外の製造工場や製造子会社など多数の事業場にて認証を取得しています。また公的認定製品は専門の組織を置きその適合性を管理しています。

生産性向上に向けた人材の育成

当社グループ全体で取り組んでいる改善活動であるNKK（ニチアス改善活動）を通じて、メンバーの成長や交流を支援しています。NKKでは、生産職場に加え、事務職や営業職など多種多様な職場で働くメンバーが「ものづくり改善」

「ものづくり進化」「業務改善」「ビジネス展開」をキーワードに「現場力の向上」に取り組んでいます。年に1度開催される「オールニチアスNKK世界大会」では、世界中の職場から選ばれた優秀チームがその成果を披露します。その模様は国内外の事業場にもライブ配信され、世界中の仲間とも成果を共有します。



NKK活動



オールニチアスNKK世界大会

製品の安定供給

当社グループは幅広い産業になくてはならない製品・サービスを提供しています。したがって製品供給が滞ることなく、継続的に事業活動を行っていくためのBCP対策は極めて重要な経営課題です。

災害発生時に製品供給が途絶えた場合のお客さまへの影響度合い、市場での重要性、他社製品も含んだ代替品への切り換えの可能性などを勘案し、対策が必要な製品の優先順位をつけ、対策を確実に実施することで、製品供給の確保に努めています。また、災害発生時、企業活動を支える従業員の安全確保も重要な課題です。この2点をBCP対策の基本課題として、各種対策に取り組んでいます。

BCP対策を強化した事業所



玉寺工場新1号棟

株主・お取引先とのつながり



ニチアスグループは、透明性、公正性、効率性を重視した経営を行うとともに、財務情報については、迅速かつ適切に開示しています。

また、お取引先に対しては、公平性を重視し、法令を順守した公正な取引を行っています。

株主・投資家への情報開示

IR活動

当社グループでは、株主・投資家の皆さまからのご意見を真摯に受け止め、経営に活かしていくことが重要との認識から、担当部署としてIRチームを設置し、株主・投資家の皆さまとのコミュニケーションの充実に努めています。

例えば、アナリスト・機関投資家向け決算説明会や工場見学会、個人投資家向け会社説明会を開催しているほか、日常的なミーティングや証券会社主催のカンファレンスへの参加なども行っており、2017年度は延べ159件のミーティングを行いました。こうしたアナリスト・機関投資家との対話を通じて得られたご意見については、定期的にIR担当より社内へフィードバックされ、経営・事業活動の改善に役立てています。引き続き、国内外の株主・投資家とのコミュニケーションを強化し、幅広い株主層の形成に努めていきます。

アナリスト・機関投資家向け決算説明会の開催

アナリスト・機関投資家との適時・適切なコミュニケーションを図るため、期末決算および第2四半期決算の発表時に決

算説明会を開催しています。決算説明会では経営方針、経営戦略、事業概要、財務情報を説明するとともに、経営幹部と投資家との対話にも積極的に取り組んでいます。2017年度は、2回の説明会で計123名に出席いただきました。今後も財務情報だけでなく、環境・社会・ガバナンスなどの非財務情報に関する対話についても積極的に取り組んでいきます。



決算説明会

お取引先とのつながり

取引に関する方針

当社は、お客さまへの供給責任を果たすことを重要な企業評価基準ととらえ、起こり得る大規模自然災害が当社の生産へ与える影響を最小限にとどめるための対策の一つとして、原材料のBCP対策を進めています。

具体的には、各サプライチェーンのBCP対策状況を把握し、必要に応じて改善を求めています。なお、万一サプライチェーンだけでの対策が難しいと判断したときは、当社の原材料・半製品・完成品の在庫を積み増すことでBCP対策を進めています。

公正な競争・取引

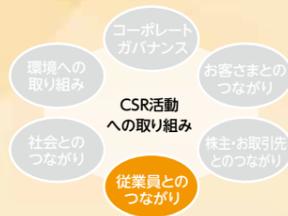
当社グループは、CSR活動の一環として、独占禁止法および下請法の研修に力を入れています。毎年、新入社員や新任管理職を対象とした研修会などに、独占禁止法・下請法順守に関するプログラムを盛り込んで実施しています。

2017年度は、本社、各支社工場および研究所並びに子会社の担当者に対して、独占禁止法および下請法の研修会を実施し、事例を通じて実務における法令の順守を確認しました。また、当社の役員および全従業員を対象に、国内の独占禁止法のみならず海外の競争法に関するeラーニングによる研修を行いました。これらの活動を通じ、当社グループは法令順守の徹底を図っています。



独占禁止法、下請法の研修会

従業員とのつながり



ニチアスグループは、安心して働くことのできる職場づくりに取り組んでいます。また、ダイバーシティの推進やワークライフバランスを重視し、仕事と家庭を両立してキャリアを積める各種制度の充実を図っています。

従業員の安全と健康の推進

安全・衛生への取り組み

安全最優先の大原則のもと、安全衛生基本方針に基づき、安全、衛生、健康に関する活動に取り組み、安全な製造設備への改善、KY活動およびリスクアセスメントの実施、作業員への安全・衛生教育などを実施しています。2017年度のスローガンは前年度に引き続き「いつでもどこでも、安全最優先」とし、リスクを先取りして未然に対応すべく、継続的な活動を進めています。また、不安全行動を防止するために「指差し呼称の定着」活動を開始し、全員が「指を差し」「呼称する」ことが当たり前になるための活動を推進しています。

メンタルヘルスケア

当社では精神科医と産業医契約を交わし、仕事や職場で悩みや心配ごとを抱えた従業員を支援するとともに、必要に応じてその上司の支援も行っています。2017年はおよそ60

回、延べ240名との面談を行いました。また新入社員や新任管理職などに対する社内集合研修では、必ずメンタルヘルス教育の時間を設けています。なお2017年度のストレスチェックは、ニチアスグループ22社、約3,900名を対象に実施しました。集団分析も行い、より働きやすい職場づくりに取り組んでいます。

広がる「安全体感教育」

ニチアスグループでは、「見て、聞いて、触って、感じる」という人間の基本的な働きを通じ、危険感受性を高める安全体感教育の受講を推進しています。2015年に開設した王寺工場「安全道場」を皮切りに、現在は国内4事業場、海外1事業場に安全体感施設が設置されています。2017年度は、ニチアスグループで1,800名超の方が施設を利用し、危険感受性を高めています。

Voice

安全体感教育



王寺工場の目玉施設として活躍

王寺工場
森本 義之

2015年、ニチアスグループ関西地区安全担当の会合で、体感教育施設を王寺工場につくることを決定しました。何しろ当社として初の試み、どのような体感機を設置すれば良いかもわからず施設づくりも暗礁に。そんなとき他社の安全施設の見学ができ、これを皮切りに体感設備づくりに拍車がかかり、工場内外の協力のもと手づくりの体感施設「安全道場」を12月に開設することができました。今では、安全小集団活動や雇入れ教育など他工場も含め、ニチアスグループの多数の方が来場します。また、2017年度は、近隣の中学生が社会学習で訪れるなど、王寺工場の目玉施設として活躍しています。



海外拠点初の安全体感教育

ニチアスFGS社(マレーシア)
Mohd. Fauzi Mustaffa

ニチアスFGSでは2015年9月に海外工場として初めての「セーフティ・トレーニング・センター」を開設し、全従業員を対象に安全体感教育を毎年実施しています。2017年度も99%の従業員が利用しています。当社には、現地従業員だけではなく、ミャンマー、インド、ネパールなどの外国人も多く働いているため、「安全最優先」を浸透させることがなかなか難しいのが現状です。そのため、体感設備は効果抜群です。設備のほか、それぞれの母国語のテキストを用意し、ビデオ映像を活用するなどの工夫をしています。

ダイバーシティへの取り組み

女性総合職の積極採用

当社は女性が活躍できる会社をめざし、女性総合職の採用を増やしていくことに取り組んでいます。「毎年の新卒採用者に占める女性の比率を20%以上にする」という目標を掲げて採用活動を行っています。最近、理系の新卒女性総合職だけでなく文系の新卒女性総合職の採用人数を増やし、営業部門へも配属しています。

障がい者雇用率の維持

当社では、障がい者の方が、一般事務、庶務、工場での軽作業など、さまざまな職場で活躍しています。全国の事業所で随時採用活動を行っているほか、特別支援学校からの新卒採用や実習の受け入れにも取り組んでいます。障がい者雇用率は2018年3月現在で2.14%(2017年3月は2.09%)になりました。

ワークライフバランスの推進

有給休暇の取得推進

ワークライフバランスを重視し、有給休暇の取得を奨励しています。現状の有給休暇取得率は、約45%ですが、50%以上を目標としています。有給休暇取得推奨日を各月に設け、労働組合と協力して周知活動を行い、取得しやすい環境づくりを推進しています。また、従業員のさまざまな事情に対して柔軟に対応できるように時間単位の有給休暇を2010年から取り入れており、従業員に有効に活用されています。

在宅勤務制度の検討

従業員が安心して働き続けられる職場環境づくりのために、育児や介護のための休業、勤務時間の短縮や時差勤務、フレックスタイム制度、子ども看護休暇、家族看護・介護休暇などワークライフバランスを支える各種制度を取り入れています。また、これらの制度に加えて、育児や介護などを行う従業員がより柔軟な働き方ができる選択肢として在宅勤務制度の導入を検討しています。

COLUMN

子ども参観日をはじめとした家族参加型イベントの充実

当社グループは会社と家族のつながりを大切にし、家庭内でのコミュニケーションを向上させる活動を推進しています。その一環として、従業員の子どもたちへ職業観の育成と親の仕事への理解を深めてもらうことを目的に、本社・支社・研究所では父母の職場見学や仕事体験をしてもらう「子ども参観日」や「家族参観日」を、製造設備がある事業場では「工場見学会」を実施しています。

本社

3年目となる本社では、20名の子どもたちが参加しました。吸着技術の実験では白衣に着替えて研究者気分を味わいました。

20名



大阪支社

初開催となった大阪支社では家族参観日として10名の方に参加いただきました。断熱材を使った実験やオフィス見学などを行いました。

10名



王寺工場

王寺工場では工場見学会・家族パトロールとして、メタコート工業、電田工業、東絶工業の家族の方も含めて、110名が参加しました。王寺町のキャラクターの雪丸くんも登場し、楽しい1日を過ごしました。

110名

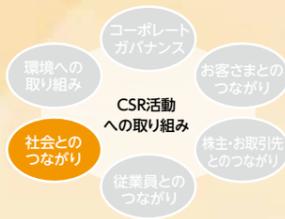


2017年度 ニチアス全国安全週間安全標語 **金賞**

知らせよう 自分のヒヤリは仲間のヒヤリ 危険の芽を摘み 安全職場

羽島工場 梨木 純

社会とのつながり



ニチアスグループは、
支援活動や助成を通じた社会への貢献を意欲的に推進しています。
また、事業所がある地域社会とのコミュニケーションづくりを大切にしています。

社会貢献活動

当社は、CSR活動の一環として災害支援や学術研究支援などの見地から、さまざまな寄付・助成を行っています。2017年度は総額で約4,000万円の寄付・助成を行いました。

災害支援

当社は、日本赤十字社や各都道府県の共同募金会を経由した寄付・支援活動を行っています。2017年度は7月に発生した九州北部豪雨災害に対するの寄付などを行いました。今後ともこのような活動を継続していきます。

学術研究に対する助成

当社は、日本の研究・開発機関に貢献すべく、研究開発に助成を行っています。助成先は、半導体関連、有機合成、セラミックス、分析・評価技術など最先端技術を中心に、幅広い分野にわたっています。また、海外の大学にも支援を広げています。2017年度は、総額約3,100万円の助成をしています。今後とも、有望と思われる分野、機関に助成を続けたいと考えています。

インドネシアにおける快適・省エネ住宅に関する助成

当社は住宅断熱研究において以前より親交のある広島大学久保田准教授の「インドネシアの中間層向け住宅の快適・省エネ化プロジェクト」を2016年度より支援しています。本プロジェクトは、インドネシアの住環境の研究機関であるPuskim(Pusat Penelitian dan Pengembangan Permukiman)、インドネシアの大学および久保田准教授が共同で行い、中間層の住宅環境の快適性と省エネルギー化を両立するための研究で、インドネシア住環境改善の貢献をめざします。支援は2016年度から4年間となり、総額7,200万円を予定しています。

COLUMN

海外拠点での社会貢献活動

ニチアスグループは世界各国に多数の生産・販売拠点を展開しています。
各国の地域や従業員との調和を図りながら、ともに発展していけるよう、さまざまな取り組みを行っています。

中国
露佳斯(上海)貿易有限公司 広州分公司

● 植林活動

インド
NICHIAS INDUSTRIAL PRODUCTS PRIVATE LTD.

- 工場外周清掃の実施
- チェンナイ商工会主催による交通安全啓蒙活動への寄付



清掃活動

インドネシア
PT. NICHIAS SUNIJAYA

- 各種寄付・義援活動(近隣モスク、孤児院)
- ファミリーギャザリングの開催

インドネシア
PT. NICHIAS ROCKWOOL INDONESIA

- 工場周辺清掃
- 工業団地主催の地域住民参加型イベントへの寄付

インドネシア
PT. NICHIAS METALWORKS INDONESIA

- 周辺地域に金属スクラップを提供

マレーシア
NICHIAS FGS SDN. BHD.

- 学校、宗教施設などに対する建築用パネルの寄付
- 保全森(FGSの森)の手入れ・植林
- 献血活動
- 近隣零細果樹農家への畑整備や肥料配布などによる支援活動

メキシコ
NAX MFG, S.A.DE C.V.

- ネオンマラソン大会(チャリティラン)への参加
- 従業員家族を対象とした工場見学会を開催
- メキシコシティ近郊大震災に救援物資支援



チャリティラン

タイ
NICHIAS (THAILAND) CO., LTD.

- 工業団地内の清掃活動に参加
- 身体障害者協会への寄付
- 近隣小学校に不要な蛍光灯を寄付
- 海岸保護のための植樹活動に参加

タイ
THAI-NICHIAS ENGINEERING CO., LTD.

- 拠点周辺地域の清掃活動
- 小学校図書館のリノベーションを実施

タイ
THAI NICHIAS INTERNATIONAL CO., LTD.

- 孤児院に対するの寄付や衣服の寄贈

ベトナム
NICHIAS HAIPHONG CO., LTD.

- 養護施設の方を対象としたギフトフェスティバルおよび運動会の開催

地域貢献活動

ニチアスグループは全国各地に各種事業所を有しています。各地域に根ざした活動为目标に各事業所がさまざまな取り組みを行っています。

■ ニチアス本体 ■ 子会社

事業所	取り組み内容
苫小牧営業所	ペットボトルキャップ回収
仙台支店	地域清掃活動
福島営業所	地域清掃活動、花壇の整備
東京支社	交通安全街頭活動、地域清掃活動
鹿島支店	地域清掃活動
千葉支店	献血活動、赤い羽根募金活動、五井臨海まつりなどへの協賛、日本赤十字などへの寄付
日立営業所	地域清掃活動
宇都宮営業所	地域清掃活動
前橋営業所	ペットボトルキャップ回収
新潟営業所	小学生スキー授業引率指導および講習講師、地域清掃活動
山梨営業所	地域清掃活動
名古屋支社	地域清掃活動、赤い羽根募金や秋祭りなどへの寄付金
若狭支店	地域清掃活動、おおい町花火大会などへの寄付
静岡支店	地域清掃活動、御前崎社会福祉協議会への寄付
浜松支店	地域清掃活動
豊田支店	交通安全運動に参加、交差点での立哨活動に参加
四日市支店	尾鷲港祭りへの協賛金
富山営業所	動物愛護組織への新聞紙提供、献血活動
大阪支社	天神祭渡御行事保存協賛会などへの寄付、地域清掃活動
京滋支店	彦根市社会福祉協議会への賛助、赤い羽根募金活動
姫路支店	秋祭りへの協賛
堺営業所	地域清掃活動
神戸営業所	地域清掃活動
岡山支店	発展途上国支援のための古切手回収活動、赤い羽根募金活動
広島支店	地域清掃活動
徳山支店	地域清掃活動、徳山ツリー祭りへの協賛
宇部営業所	地域清掃活動
四国営業所	地域清掃活動、地方祭への協賛
九州支社	地域清掃活動
長崎支店	三菱長船祭りへの参加、地域清掃活動
熊本支店	通動指導活動、地域清掃活動
北九州営業所	地域祭りへの寄付
大分営業所	地域清掃活動
浜松研究所	地域清掃活動
鶴見工場	地域清掃活動、花火大会や消防出初式への寄付

幼稚園・保育園への図書寄贈 袋井工場

袋井工場は1963年の操業以来、長くお世話になっている地元袋井市の地域に対して貢献していきたいとの観点から、工場近隣の幼稚園や保育園に対しての寄付や図書の寄贈などを継続して行っています。2017年度には袋井市長からお礼状をいただきました。



新しい絵本を手に笑顔の子どもたち

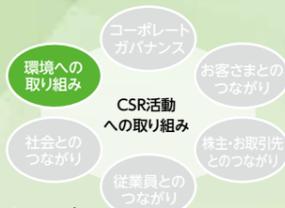
福田諏訪神社のお祭りへの参加 福島ニチアス

興国4年(1343年)頃に創建したと伝えられる福田諏訪神社は、福島ニチアスと同じ福島県相馬郡新地町にあり、古くから地元で親しまれています。毎年5月に行われる春の例大祭では、多くの従業員もお祭りに参加・協力をしています。2017年は25名の従業員が青い法被を羽織りお祭りに参加、神輿の担ぎ手として町内を練り歩きました。



神輿の担ぎ手として参加する従業員

環境への取り組み



ニチアスグループの製品は、断熱、流体の漏れ防止、遮音、耐食などの機能により、省エネルギー、省資源、安全衛生・環境保全など、お客さまの「環境」に関するニーズに応え、お客さまの使用ステージにおいて環境負荷の低減を実現しています。ニチアスグループは、つねに「環境」を意識して活動しています。

ニチアス環境憲章

当社では環境改善活動を全社的なものにするべく、2001年4月に当社の環境方針となる「ニチアス環境憲章・環境行動指針」を制定しました。2017年4月には、環境に対する社会のニーズに合わせて、内容を変更しました。

これらを実行すべく、製造部門では環境マネジメントシステムの統合認証取得による環境管理活動を推進しており、事業部門ではより環境負荷を低減した製品の開発をめざし、管理部門では活動をより全社的なものにするべく、システムの構築や環境教育の実施に取り組んでいます。

環境行動指針

ニチアス環境憲章に従い、以下の項目を継続的に活動し、改善を図っていきます。

- 1 コンプライアンスの徹底**
法令順守はもとより、自主基準を設定し、社会的責任を果たします。
- 2 環境負荷低減製品の開発**
環境負荷低減に役立つ製品及びサービスを開発し、普及に努めます。
- 3 環境パフォーマンスの向上**
省エネ・省資源・化学物質管理などの環境目標をたて、実行します。
- 4 社会との共存**
地域社会と共存するとともに、豊かな自然を大切にします。



環境活動の推進体制

当社グループでは、1968年に現場改善分科会を設置し早期から環境対策を行ってきました。1990年代に入ると工場からの環境負荷低減はもとより、コンプライアンス徹底のための環境レベル診断、地域住民目線で工場周囲をチェックする環境パトロールなど、独自の方法で環境問題へ取り組み、リスクを低減してきました。このような対策の歴史から、2011年度より環境経営への転換を目的として、環境管理推進体制の整備を進めています。

環境に配慮した活動を全社方針のもとで実現するため「全社環境委員会」を設置し、同委員会のもとに「管理」「製品」「工場」の3部会を置く体制としています。工場部会では、ISO14001のグループ会社統合取得を推進し、2020年度の全製造事業場統合をめざしています。2017年度にはISO14001の2015年度版への移行が完了しています。

環境管理推進体制図



ISO14001などマネジメントシステムの認証取得状況
<http://www.nichias.co.jp/environment/management/>

環境管理活動と目標

「ニチアス環境憲章」に基づき、環境中期方針(2016年度～2020年度)を新たに策定しました。環境中期方針では「コンプライアンスの徹底」「環境負荷低減製品の開発」「環境パフォーマンスの向上」「社会との共存」の4課題を設定して活動しています。

環境中期方針に基づく2017年の目標と実績

	中期目標	2017年度目標	2017年度実績	評価	2018年度目標
1 コンプライアンスの徹底	環境負荷や法的不備が変化点でわかる仕組みの構築	全事業場における環境法規の順守徹底の継続	外部審査、社内環境部門による環境監査にて大きな法違反なし 法順守を維持できる仕組みが継続されている	●	全事業場における環境法規の順守徹底の継続
	製品環境法規の順守徹底	製品環境法規の順守徹底の継続 継続的な毒劇物製品扱い者、危険物輸送担当者への教育	毒劇物取締法、消防法、国連危険物に関連する製品の取り扱いから販売・輸送までの定期教育に加え製造事業場への危険物輸送責任者の選任と教育を開始	●	製品環境法規の順守徹底の継続 継続的な毒劇物製品扱い者、危険物輸送担当者への教育
	SDSの確実な提出	SDS作成と改訂の継続と確実な提出ラベル表示の順守継続	SDS新規作成52件 改訂160件 2018年6月の労働安全衛生法によるラベル表示義務の追加物質についても準備済	●	SDS作成と改訂の継続と確実な提出ラベル表示の順守継続
	全従業員への環境教育の実施	全従業員への定期環境教育の推進・維持の継続 eラーニングによる全従業員への環境教育の実施継続 受講率目標 95%	全従業員向けeラーニング教育実施済 環境ボランティア活動の実行 eラーニングによる部門別環境教育の実施 受講率 97%	●	全従業員への定期環境教育の推進・維持の継続 eラーニングによる全従業員への環境教育の実施継続 受講率目標 95%以上の維持
	環境委員会 工場・製品・管理部会の充実	工場・製品・管理部会それぞれの年2回開催の継続	環境委員会でニチアス禁止物質の追加を決定。また、各部会を年2回開催	●	工場・製品・管理部会それぞれの年2回開催の継続
	PCB含有機器の適切な処理の推進	PCB含有機器の調査推進と適切な処理継続	高濃度機器7台 低濃度機器22台処理 PCB含有機器の調査を継続	●	PCB含有機器の調査推進と適切な処理継続
2 環境負荷低減製品の開発	未規制化学物質への自主的対応	製品環境アセスメント、製品含有物質管理の徹底継続 未規制化学物質への自主的対応の継続	諸外国で規制化された物質の有害性情報よりリスクに応じて社内での取り扱い方法を通知するようシステムを整備	●	製品環境アセスメント、製品含有物質管理の徹底継続 未規制化学物質への自主的対応の継続
	顧客グリーン調達への対応	顧客グリーン調達への対応継続 原材料グリーン調達の定期更新の継続	顧客からのグリーン調達調査は事業部で対応できる体制確立 2017年度グリーン調達結果 新規:183件(2016年度:153件) 更新:355件(2016年度:275件)	●	顧客グリーン調達への対応継続 原材料グリーン調達の定期更新の継続
3 環境パフォーマンスの向上	産業廃棄物排出の削減	産業廃棄物排出量生産高原単位を2018年度末に2016年度比5%削減(目標を修正)	君津ロックワールでの大幅な産業廃棄物削減活動の継続により2016年度比13%削減	●	産業廃棄物排出量生産高原単位を2018年度末に2016年度比5%削減(目標を修正)
	原油換算エネルギーの削減	原油換算エネルギー原単位を2020年度末までに2015年度の必達目標 5%削減 努力目標 7.5%削減(COP21目標に準拠)	全体的な生産増加によるエネルギー効率向上で2015年度比8%削減	●	原油換算エネルギー原単位2020年度末までに2015年度の必達目標 5%削減 努力目標 7.5%削減(COP21目標に準拠)
	国内製造拠点のISO14001取得率向上	2017年度 ISO14001を2015年度版へ移行完了 国内製造拠点のISO14001取得率向上 2015年度末13事業所→2020年度末21事業所	2017年10月審査にてISO14001を2015年版へ移行済 ニチアスセラテック㈱を統合ISO14001へ追加準備開始	●	国内製造拠点のISO14001取得率向上 2015年度末13事業所→2020年度末20事業所 未取得事業場の取得準備開始
4 社会との共存	情報公開の維持・推進	2017年CSRレポートの発行	2017年6月CSRレポートを発行	●	2018年CSRレポートの発行
	事業場の美観整備	工場整備計画の継続実施	王寺工場の新棟、鶴見工場再編の事務所棟完成 2棟とも屋上に緑化施設を設置	●	工場整備計画の継続実施
	再発苦情の撲滅	再発苦情撲滅のための方策展開の継続 再発環境苦情 ゼロ	環境会議などで再発防止策の有効性と水平展開を実施 環境苦情 6件発生、内再発1件	×	再発苦情撲滅のための方策展開の継続 苦情となりうる設備の特定化とその管理方法の確立 再発環境苦情 ゼロ

環境パフォーマンス

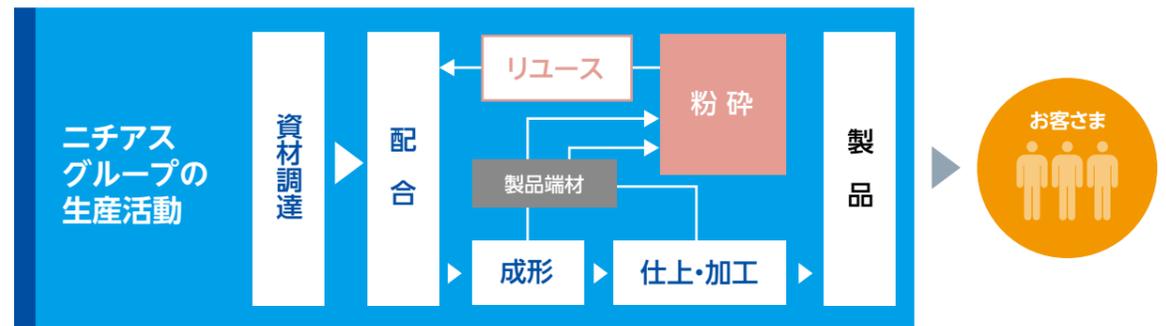
持続可能な社会の構築に向けて環境負荷物質削減への取り組みを強化しています。

当社グループでは2015年度より環境活動範囲を拡大し、2017年度レポートより君津ロックワールのデータを追加しています。

ニチアスグループの環境負荷全体像

当社グループは、事業活動において投入するエネルギー量や化学物質・水資源などの物質量と、排出するCO₂量や産業廃棄物量などを把握するとともにそれらの削減に向けた具体的な目標を設定し、PDCAサイクルを回すことで環境負荷の削減に取り組んでいます。

INPUT		エネルギー		水資源		PRTR*対象物質	
種別	使用量	種別	取水量	種類合計	52	種類合計	52
電力	16,105万kWh	上水	23万m ³	使用量	2,796t		
石油燃料	11千kℓ	工業用水	54万m ³				
ガス燃料	996万m ³	地下水	29万m ³				
コークス	10千t						



OUTPUT		CO ₂		排水		主なPRTR*対象物質排出量	
種別	排出量	種別	排出量	種別	排出量	物質名	排出量
CO ₂	18.0万t	排水	55.8万m ³	トルエン	186.1t		
				エチレングリコールモノエチルエーテル	3.8t		
				ホルムアルデヒド	2.5t		
				キシレン	1.3t		
				トリエチルアミン	1.2t		

※特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律

エネルギーの効率利用実績

当社グループは2016年度からの環境中期計画では2020年度末の5年間で2015年度比原油換算エネルギー生産高原単位5%減を必達目標とし、さらに努力目標を加えた7.5%の削減活動を進めています。これはCOP21の削減目標を見すえたものになっています。

2017年度は活発な生産活動による生産量増加に支えられ原油換算エネルギー生産高原単位は良化し2015年度比では8%削減となりました。2017年度のCO₂排出量は、18万トンと2016年度に比べ0.5万トン減少し、CO₂排出量原単位は2015年度比12%の減となりました。

当社グループでも積極的に省エネ機器の導入および更新の取り組みを進めており、2017年度の環境保全設備では、高効率トランスの導入、照明機器のLED、省エネ型エアコンの採用などで381百万円ほどの設備投資を行っています。

不要物・産業廃棄物排出量の削減

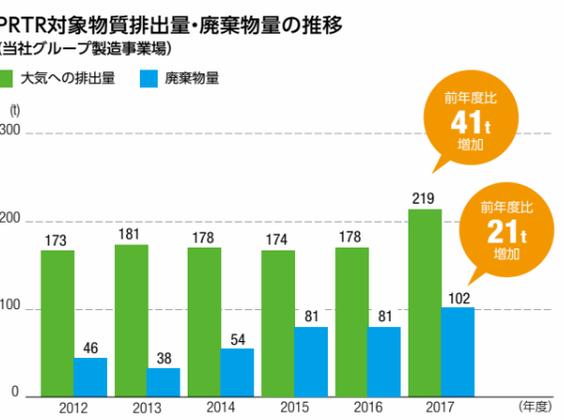
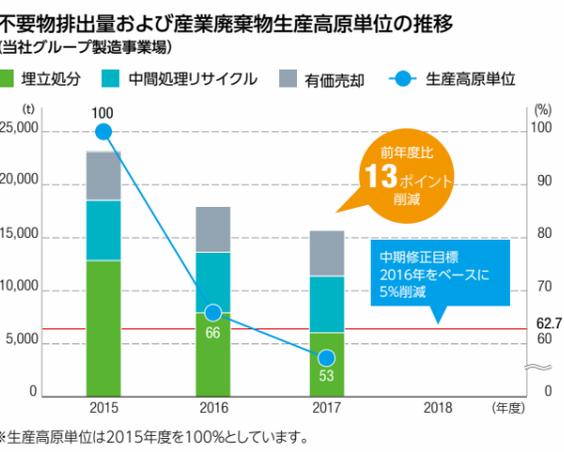
2017年度の事業活動における不要物^{注1}の排出量は総量15,401トンで前年度比2,416トンの減少、産業廃棄物の排出量は11,159トンで前年度比1,915トンの減少となりました。排出量生産高原単位では前年度比13ポイントの減少で大きく目標を達成しています。昨年度は廃棄物削減の目標を見直し、2018年度に2016年度原単位の5%削減としましたが、それも大幅にクリアしています(グラフ参照)。各拠点での不良低減活動、製造歩留まり改善、生産性向上などの活動を通じて、確実に不要物、産業廃棄物を減量させていく取り組みを引き続き継続していきます。なお、当社グループより排出される不要物から61%のものが再資源^{注2}として利用されています。

注1: グループから排出される有価売却物を含む廃棄物
注2: 最終処分(埋め立て)以外の中間処理、社内再生、有価売却されたものを再資源化と定義

PRTR対象物質排出量の削減

2017年度の事業活動におけるPRTR対象物質の使用量は2,796トンで、前年度から24トンの増加となりました。これは、好調な受注増により生産工程で副資材に使用する溶剤の使用量が増加しPRTR対象物質投入量が増加したことによるものです。そのため、大気および廃棄物としての排出が2017年度は若干の増加となっています。

各生産拠点では、すこしでも環境影響を減らすべく継続して化学物質取り扱い量の削減、PRTR対象物質を含まない洗浄剤や塗料への転換に取り組んでいます。



環境マネジメントシステム

さまざまな環境問題に積極的に取り組むとともに、環境憲章に基づいた環境経営の実現をめざしていきます。

環境リスクマネジメント

●製品含有化学物質管理への取り組み

製品の開発設計から、調達、製造、販売までの各段階において、化学物質規制に対するコンプライアンスを徹底する取り組みを継続しています。2017年度も継続して「製品含有化学物質の管理体制」の運用を進めてきました。従来から発行しているSDS(安全データシート)や製品ラベルなどお客さまへの提供資料を同体制に連動して作成・管理ができる仕組みです。

●環境パトロール

地域社会との共生を目的として、当社グループでは1990年から環境パトロールを実施しています。これは従業員が事業場の周囲をパトロールし「美観」「大気(粉じん・臭気)」「騒音・振動」「排水」の4つの項目を事業場の特性に合わせて確認する活動です。

2017年度はグループ全体で延べ86回パトロールを実施し、111件の不具合を摘出し、環境リスクを低減することができました。

●外部からの指摘

2017年度は、製造事業場から発生する騒音についてグループ全体で6件の指摘を受けました(内、再発環境苦情は1件)。騒音苦情は夜間に発生することが多いため、その時間帯に異常騒音を検出する監視機器の設置を進め、再発防止を図っています。指摘内容の対応経過や改善策は関係自治体へも報告、連絡しています。

●環境啓発活動

2017年度も情報新聞「安全衛生環境通信」(月刊)の刊行を継続し、社内外の安全衛生環境情報を全従業員に発信してきました。

また、従業員一人ひとりの環境に対する意識を高めていくような地域へ協力する清掃活動を展開しています。

環境監査体制

製造事業場では①製造事業場内での内部監査、②本社環境部門による監査、③外部審査機関による監査の3者による環境監査を実施しています。2017年度もISO14001工

場統合認証継続活動の中で事業場間相互内部監査を実施しています。なお、これらの監査の結果、敷地境界騒音にて一部基準超過はあるものの重大な法令違反はありませんでした。

環境会計

事業活動における環境保全設備投資金額^{注1}は637百万円でグループ全体の設備投資額の5%にあたり前年度比129百万円の増加となりました。これは、省エネ機器の採用や新棟建設にともなう緑地の整備などに積極的に投資した結果です。

また、環境設備の運転コスト・メンテナンス費用・人件費などを集計した環境保全コスト^{注2}は459百万円となり前年度比20百万円の増加となりました。

注1: 当社グループ全体を集計対象
注2: 当社製造工場のみを集計対象(グループ全体の集計は検討中)

環境保全設備投資金額(当社グループ全体/2017年度)

分類		金額
事業エリア内コスト	公害防止コスト	106
	地球環境保全コスト	381
	資源循環コスト	54
管理活動コスト		96
合計		637

環境保全コスト(当社製造工場/2017年度)

分類		金額
事業エリア内コスト	公害防止コスト	230
	地球環境保全コスト	23
	資源循環コスト	134
管理活動コスト		72
合計		459

環境教育・啓発

●環境教育活動

当社では全従業員を対象とした職種別eラーニングの環境教育を2013年から毎年実施しています。事業本部で主管製品が異なるため、事業本部ごとの教育項目で学習する内容としています。2017年度は、工事用材料を取り扱う基幹産業事業本部ではSDS(安全データシート)の理解を深める勉強内容としました。

TOPICS

地域環境への配慮活動

王寺工場での無煙化活動

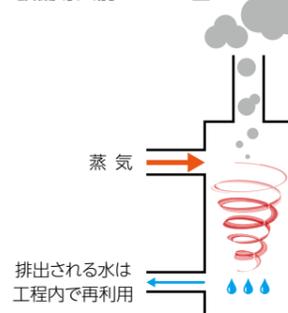
王寺工場ではボード製品製造時に間欠的に蒸気を大気へ放出する生産工程があります。近隣で徐々に住宅やマンションが建設され、風向きによっては隣接マンションに蒸気がかかる可能性があるため、蒸気による白煙を排出させない環境対策設備を導入しました。



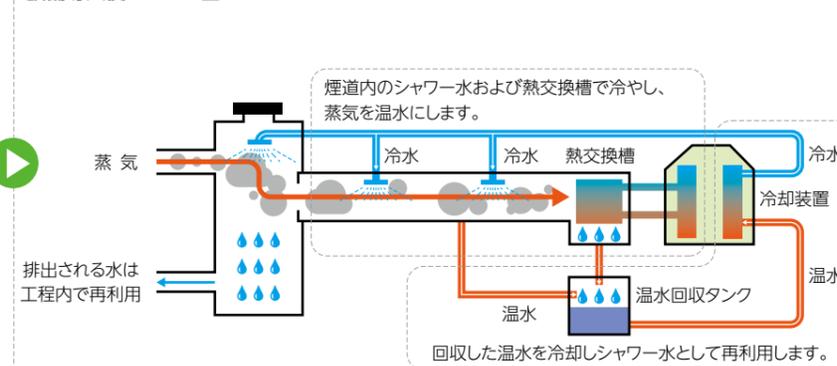
設備導入前の工場上空

設備導入後の工場上空

設備導入前のフロー図



設備導入後のフロー図



環境対策

Voice



省エネタイプの
白煙排出防止を実現

王寺工場 技術課
谷口 正浩

白煙を押さえ込むことは、理論的にはできると思っていたものの、うまく処理できるか不安もありましたので、袋井工場が行っている、蒸気からの脱臭除去設備などを見学し参考にさせていただきました。実際に設備を稼働してみると、冷却された蒸気が液化して設備内の循環水が大幅に増加することがわかりました。そこで冷却装置を大型化し液化水を強力に冷やし、追加冷却水の供給を絞ることで、省エネルギータイプの白煙排出の防止をしています。

COLUMN

工場屋上へ緑化の展開

東日本大震災以降、当社ではBCP対策として製造建屋を計画的に更新し、屋上の有効利用を促進しています。2015年度に竣工した袋井工場事務所棟では屋上にソーラーパネルを設置し、事務所使用電力をまかっています。2017年度に竣工した鶴見工場、王寺工場では従業員がくつろげるスペースを兼ねた、屋上緑化を採用しました。鶴見工場は芝生・植栽のほかウッドデッキやベンチを置いています。また、王寺工場では、王寺町の方針「花と緑にあふれる美しい景観づくり」に沿って地上17mの屋上からの眺望と660m²の芝生スペースを設けました。ここからは、王寺町を360度見渡すことができ、西には生駒山、東にはお花見名所の三室山も眺められ、奈良の自然を四季折々に満喫できます。これからも、地域社会や環境と融合した生産工場となる活動を進めていきます。



鶴見工場



王寺工場



ニチアス株式会社

〒104-8555 東京都中央区八丁堀一丁目6番1号
TEL 03-4413-1194 (CSRチーム事務局)
<http://www.nichias.co.jp>



表紙の写真

ニチアスは古くから日本を指すトンボをトレードマークとして使用してきました。CSRレポートでは、トンボをテーマにした写真を当社グループの従業員から公募し、掲載しています。2018年の応募者数は48人でした。表紙の写真は「自然との調和」をイメージしたトンボの写真として、見事優秀賞に輝いた作品です。

撮影者のコメント

毎年トンボの写真を応募しているのですが、2018年は激戦だなと思っておりましたので、まさか優秀賞をいただけるとは思いませんでした。大変光栄です。いつかCSRレポートの表紙を飾りたいという小さな夢が一つ叶いました。写真は、浜松のフラワーパークに行ったときのものです。幸運にもピンクの綺麗な花にとまってくれて、ここで撮るしかないと思いました。今後も引き続き撮っていきたいです。

高機能製品事業本部 無機断熱材技術開発部 宮崎 誠

この印刷物
1冊あたり
CO₂ 250.5g



この印刷物は、日本水なし印刷協会、カーボンフリーコンサルティングを通じ、温室効果ガス削減プロジェクト（自然エネルギー事業）によって削減された CO₂ 排出権を購入することで、印刷物制作において排出された CO₂ を相殺しています。



印刷版の作成時に有害な現象液を使わず、また印刷の際にイソプロピルアルコールなどを含む湿し水が不要な水なし印刷を採用しています。



この印刷物は鉛物油を使用せずに VOC（揮発性有機化合物）を含まない 100% 植物油型インキを使用しています。



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



京都議定書の目標である「温室効果ガス 6% 削減」のためには、国内森林で「3.9% 吸収」の実現が必要です。国産材を積極的に使うことは CO₂ を吸収する森の育成に貢献できます。この冊子の制作には、国産材が製紙原料として活用されています。



LC-CO₂ に関しては、こちらからご覧いただけます。

この印刷物に記載されている情報の全部または一部について、当社に無断で複製、複製、模倣、流用、転載すること、および磁気媒体または光記録媒体に入力することは固くお断りします。